

<表紙>

令和8年度鹿児島大学大学院保健学研究科博士前期課程
第1次募集 入学試験問題用紙（兼 解答用紙）

令和7年9月3日（水）

試験科目：専門科目（母性看護学）

注 意 事 項

1. 「解答始め」の合図があるまでこの問題用紙（兼 解答用紙）は開かないこと。
2. この問題用紙（兼 解答用紙）は、表紙を含めて4ページである。
3. 「解答始め」の合図があったら、まず、問題用紙（兼 解答用紙）の枚数が合っているか確認し、もし数が合わない場合は手を高く挙げ申し出ること。
次に、受験番号及び氏名を必ず表紙以外のすべての問題用紙（兼 解答用紙）の指定された箇所に記入してから、解答を始めること。
4. 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入すること。

受験番号

氏名

1. 以下の文を読み、（ ）に当てはまる語句や数字を答えなさい。

1. 月経周期が延長し、39日以上3か月以内で発来した月経を（希発）月経という。
2. ヒトの発生は、受精により始まるが、胎児と呼ばれるのは妊娠（10）週以降である。
3. 胎児循環の特徴は、成人循環にはない（動脈管（ボタロー管））（静脈管（アランチウス管））（卵円孔）という短絡路を有していることである。※ 順不同
4. 葉酸は、ビタミンB群の一種であり、受胎前後において摂取することにより（神経管閉鎖）障害のリスクを低減させることが報告されている。
5. （DOHaD）は、胎生期から乳幼児期に至る栄養が、成人期あるいは幼年期における生活習慣病発症リスクに影響するという概念である。※ DOHaD学説、DOHaD説、DOHaD仮説のいずれかでも可
6. 正常に経過している妊娠24週の妊婦が、次に妊婦健康診査を受診する時期として推奨されるのは、（2）週間後である。
7. 妊娠末期において、仰臥位低血圧症候群による低血圧が生じた場合、（左）側臥位を取らせることを優先する。
8. 重症妊娠高血症候群の10～20%に発症するHELLP症候群の3徴候は、（溶血）（肝酵素上昇）（血小板減少）である。※ 順不同
9. 分娩が進行し胎児の下降部が軟産道を強く圧迫するようになると陣痛発作により反射的に腹圧が生じ、努責が起こる状態を（共圧）陣痛という。
10. 新生児蘇生法における出生直後の評価項目は、（早産児）（弱い呼吸・弱い啼泣）（筋緊張の低下）である。※ 順不同
11. R. Rubinによって明らかにされた母親の適応過程は、分娩の回復過程と密接に関連しており、分娩後24～48時間、受け身で依存的な（受容）期、出産後2・3～10日頃、依存的な状態から自立的な状態に移行する（保持）期、母親としての課題を果たす（解放）期がある。
12. 乳汁産生を調整する仕組みのうち、細胞から分泌された伝達物質が、分泌細胞自身に作用し、機能を調整するしくみを（オートクリン・コントロール）という。

受験番号 _____ 氏名 _____

II. 以下の文を読み、正しいものには○を誤っているものには×を（ ）の中に答えなさい。

- (×) 妊娠5週において胎嚢内に心拍が確認できない場合は、流産を疑う。
- (×) 妊娠中、胎児の発育のためカルシウムが失われ易く、カルシウムの1日摂取量には付加が必要である。
- (×) シングルマザー、ステップファミリー、サポート不足などのハイリスク要因を有している妊婦である特定妊婦について定められているのは、母子保健法（第6条）である。
- (○) 胎盤位置異常があった場合、子宮下部、子宮頸部では平滑筋成分が少なく収縮が弱いため、分娩後・産褥期において弛緩出血を起こしやすい。
- (○) 赤血球数や血色素数は分娩直後にやや減少し、産褥3～5日に最低値となる。

III. Aさん（24歳）、初妊婦。妊娠26週2日。本日、妊婦健康診査に訪れた。事務の仕事をしており、1日の活動量は低い。身長154cm、非妊時体重51kg。健康診査時、体重60kg（2週前から2.5kgの増加）。子宮底長23cm、腹囲78cm、血圧118/70mmHg、尿蛋白（－）、尿糖（±）、浮腫（±）、Hb11.2g/dL、Ht34.0%。Aさんは、料理があまり得意ではなく、夫婦ともに朝食を食べないことが多い。「つわりがなくなって、お腹がすくのでクッキーなどよく間食してしまいます。」「コーヒーが好きなのですが、カフェインを控えるために飲まないようにしています。」「夕方は、足が浮腫んでだるさがあります。」「出産経験のある友人や会社の同僚がいて色々と聞くことができるので、安心しています。」と発言がある。

保健行動の継続には自己効力感を高めることが重要である。バンデューラが提唱する自己効力感に影響を与える4つの要因を挙げ、4つの要因に対するAさんへの体重増加コントロールの看護を2つずつ挙げなさい。

4つの要因	看護
（ 達成経験 ） ※成功体験でも可	<ul style="list-style-type: none"> ・間食を小さいおにぎりなどカロリーの低いものに変更するよう提案する。 ・朝食には、簡単に食べられるバナナなどを取り入れてみることを提案する。 ・日常生活に取り入れられる軽度な運動を提案する。 など ※ 食事や運動に関する負担の軽減、障壁の除去など（スモールステップ）が記載されていれば可
（ 代理体験 ） ※代理経験でも可	<ul style="list-style-type: none"> ・出産経験ある友人や同僚に妊娠中の食事の工夫について聞いてみるよう提案する。 ・母親学級などへの参加を促し、同じ週数の方と話をする機会を提供する。 など ※ ピアサポート者や週数の近い妊婦の成功体験の情報共有ができる提案が記載されていれば可
（ 言語的説得 ）	<ul style="list-style-type: none"> ・胎児の健康や分娩時のリスクを回避するために、体重コントロールが必要であることを説明する。 ・体調を気かけながら仕事をしていることをねぎらう。 ・貧血が出現しておらず、胎児のために鉄分がとれていることを称賛し、体重コントロールの必要性を前向きに捉えさせる。 ・胎児のためにカフェインを控えていることを称賛し、体重コントロールの必要性を前向きに捉えさせる。 など ※ 体重増加によるリスクに関する説明、現在できていることのねぎらいや称賛などが記載できていれば可
（生理的情緒的喚起） ※情緒的喚起でも可	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽やアロマなど気持ちを切り替えられる方法を生活に取り入れてみることを提案する。 ・浮腫みが減った、体調が良いなどの変化を捉えるよう促す。 など ※ リラックゼーションの提案や体重コントロールすることでの体調の変化に目を向けられる関わりが記載されていれば可

※ 4つの要因の解答は、順不同でも可とする。

受験番号

氏名

IV. Bさん（40歳）、初産婦、妊娠40週0日で2,800gの男児を正常出産した。分娩後の経過は順調であり、産後5日目に退院した。他県にいる実父母、義父母ともに80歳代であり、里帰りはしていない。公務員である夫（42歳）は、育児休業を1か月取得している。本日は、2週間健診にて来院した。血圧128/82mmHg、脈拍78/分、尿蛋白（-）、尿糖（-）、子宮底触れず、黄色悪露少量であった。エジンバラ産後うつ病質問票9点、赤ちゃんへの気持ち質問票3点であった。7～8回/日の直接授乳と人工ミルク60mlを補足している。本日の児の体重は、2,900gであり、健康状態に問題はない。「昼も夜もよく泣くのでおろおろしてしまいます。母乳だけにしたいけど、ミルクも足さないと泣くんです。」「夫は手伝ってくれるのですが、やることがいっぱい、不安で怖くなってきます。」「子どもは、とてもかわいいのですが、ぐっすり眠れず、疲れてしまって悲しくて涙が流れます。」「母は、高齢なので心配をかけたくなって、相談できていません。」と発言がある。

Bさんの状態をアセスメントし、継続支援で必要な連携機関や活用できる支援事業を5つ以上書きなさい。
<アセスメント>

バイタルサインなど身体的異常はなく、子宮復古状態も良好である。夫が育児休暇を取り、協働して育児をしているが、育児における支援不足がある。母乳育児を希望しているが、人工ミルクの補足が必要であり、母乳育児への不安がある。熟睡感が得られておらず、エジンバラ産後うつ病質問票9点および赤ちゃんへの気持ち質問票3点以上であり、心身の疲労がみられるため産後うつのリスクがある。児の発育状態、健康状態は良好である。

<連携機関・支援事業>

市町村保健センター、精神科、子育て地域包括支援センター、ファミリーサポートセンター
新生児訪問事業、乳幼児全戸訪問事業、産後サポート事業、産後ケア事業、育児相談事業 など

点数

(100点満点)